

【解答例】

I

- 問 1 c
- 問 2 a
- 問 3 リベリア
- 問 4 ガーナ (王国)
- 問 5 トンブクトゥ
- 問 6 スワヒリ (語)
- 問 7 d
- 問 8 b
- 問 9 1960 (年)
- 問 10 c

II

- 問 1 c
- 問 2 マーストリヒト
- 問 3 b
- 問 4 ユーロ
- 問 5 エラスムス
- 問 6 c
- 問 7 a
- 問 8 東ティモール (東ティモール民主共和国)
- 問 9 a
- 問 10 グローバリゼーション

III

- 問 1 リヴァイアサン
- 問 2 c
- 問 3 ジハード
- 問 4 a
- 問 5 スパルタ
- 問 6 c
- 問 7 b
- 問 8 a
- 問 9 ヨーク (家)
- 問 10 ガザ (地区)

#### IV

問 1 d

問 2 フン

問 3 ノヴゴロド

問 4 キエフ

問 5 ウラディミル 1 世（ウラジーミル 1 世も可）

問 6 c

問 7 a

問 8 c

問 9 c

問 10 d

#### V

問 1 b

問 2 c

問 3 d

問 4 a

問 5 N P T

問 6 c

問 7 C T B T

問 8 レーガン

問 9 c

問 10 N G O

## 【解説】

### I

- 問 2 b. 誤文。北アフリカのリビアについての文です。c. 中央アジアのソグディアナ地方についての文です。d. 東南アジアのカンボジアについての文です。
- 問 3 リベリア共和国はアメリカ合衆国で解放された黒人奴隷が建国しました。
- 問 4 ガーナは第二次世界大戦後最初に独立した黒人共和国の国名にもなっています。
- 問 10 a. 誤文。中国がGDPで日本を抜いたのは2010年です。b. 誤文。チュニジアで民主化運動が始まったのは2010年です。d. 誤文。同時多発テロ事件が発生したのは2001年です。

### II

- 問 6 a. AFLはアメリカ労働総同盟の略称です。b. APECはアジア太平洋経済協力会議の略称で、ASEAN6カ国と日本・韓国・アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドによって、1989年に結成されました。d. AUはアフリカ連合の略称で、OAU（アフリカ統一機構）から理念を引き継いで2002年に結成されました。
- 問 7 b. スー=チーはビルマ（ミャンマー）の民主化運動の指導者です。c. ストルイピンはロシアの政治家で、日露戦争後にミール解体などの改革を進めました。d. スハルトはインドネシアの政治家で、九・三〇事件を機に実権を握り開発独裁を進めました。
- 問 9 a. 誤文。三・一独立運動は1948年ではなく、1919年に発生しました。1948年には、朝鮮半島で大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国が成立しています。

### III

- 問 2 c. 誤文。金ではなく、銀が正しいです。アメリカ大陸ではポトシ銀山（ボリビア）など多くの銀の鉱山が開発され、採掘された銀がヨーロッパに持ち込まれました。その結果、ヨーロッパで銀の価値が下がり物価が高騰するという価格革命が発生したのです。
- 問 6 a. 北方戦争（1700～21）はロシアがデンマークやポーランドと同盟して、スウェーデンを破った戦いです。この戦争の結果、ロシアはスウェーデンに代わってバルト海の覇権を得ました。b. プレヴェザの海戦（1538）はスレイマン1世時代のオスマン帝国が、スペイン（カルロス1世）・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊に勝利し、地中海の覇権をほぼ握ることになった戦いです。d. 諸国民戦争（1813～14）はロシア遠征に失敗したナポレオンを打倒した一連の戦いで、ライプツィヒの戦いで解放戦争の勝利が決定づきました。
- 問 7 ①正文。②誤文。第4回十字軍がラテン帝国を樹立したのはイェルサレムではなく、コンスタンティノープルです。
- 問 8 a. アルビジョワ十字軍は南フランスで勢力を持っていたカタリ派系の異端アルビジョワ派を討伐した戦いで、フランス王権が南フランスに及ぶ結果となりました。

#### IV

- 問 1 a. 誤文。『ラーマーヤナ』が現在の形にまとめられたのは、おおよそ 3～4 世紀の頃です。ヴァルダナ朝は 7 世紀前半に北インドを統一した王朝ですから、時代が異なります。b. 誤文。バンヤンの著作は『天路歷程』が知られており、『失樂園』はミルトンの著作です。ともにピューリタン文学の代表作です。c. 誤文。『神統記』の著者は女性抒情詩人のサッフオーではなく、男性叙事詩人のヘシオドスです。ヘシオドスは他にも『労働と日々』が有名です。
- 問 7 b. プガチョフはコサック出身で、エカチェリーナ 2 世時代に発生した農民反乱（1773～75）の指導者です。c. フレグ（フラグ）はチンギス=カンの孫、フビライ（クビライ）の弟で、西アジアに遠征を行ってアッバース朝を滅ぼし、イル=ハン国（フレグ=ウルス）を建国しました。d. ドレークはアルマダの海戦（1588）で活躍したイギリスの船乗りです。
- 問 8 c. 誤文。クリミア戦争で、ロシアのセヴァストポリ要塞は陥落し、ロシアは敗北しました。
- 問 9 c. 誤文。ヤルタ会談ではソ連の対日参戦が決められました。当時、イギリスはすでに日本と交戦状態でした。
- 問 10 d. 誤文。1959 年、フルシチョフは訪米した直後に中国を訪問しましたが、西側との関係をめぐって中ソ間の路線の相違が浮き彫りになりました。

#### V

- 問 2 c. 誤文。アインシュタインが核兵器と核戦争の危険性を共に訴えたのは湯川秀樹ではなく、イギリスの哲学者ラッセルです。
- 問 9 c. 誤文。戦略兵器制限交渉（SALT）が調印されたのは 1972 年（SALT-I）と 1979 年（SALT-II）です。から、1991 年末のソ連邦解体で交渉が頓挫したわけではありません。ソ連邦が解体したときに課題となったのは戦略兵器削減条約で、ロシア以外のウクライナ・ベラルーシ・カザフスタンに存在する核兵器の取り扱いをめぐるものでした。米露の外交努力によりこれらの国々も核兵器放棄に同意して、核弾頭の削減が実現しました。

## ■令和7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・世界史 出題傾向と学習アドバイス

### 【出題傾向】

2025年度は大問数が5題、設問数が50問でした。2024年度も2023年度も大問数が5題、設問数が50問でしたから、ここ数年、設問数に大きな変動はありません。試験時間が60分ですから大問1題に10分程度、見直しに10分程度くらいの大まかな時間配分をあらかじめ考えておくといよいでしょう。ただし、設問の方法や内容によっては時間がかかるものもありますから、あくまでも目安としておいて下さい。

設問の出題形式は多様です。まず解答方法が記述式とマーク式に分かれています。記述式は全体の約半数（2025年度は23問）で、空欄補充形式と下線部に関する短答形式では主に歴史用語や年号を解答させており、2025年度は論述形式（文章で説明する）での解答はありませんでした。記述式の出題では、漢字表記での誤りで失点をすることもあるので、普段から手を動かして字を書く訓練をしておくことが必要でしょう。マーク式の設問では語句選択問題（複数の語句の組合せというパターンも含めて2025年度は16問出題）と文章の正誤判断問題（2025年度は11問出題）が中心です。文章の正誤判断問題では、2文の正誤をそれぞれ判断する問題も出題されました。2023年度以降、正誤判断の出題が徐々に減少しています。正誤判断問題では正確な知識を活用することが必要ですから、漠然とした知識の暗記だけでは対応できません。

出題される時代と地域も幅広いです。時代については、古代から戦後に到るまで出題されています。特に2025年度は戦後史（第二次世界大戦後）の比重が高めでした。先史時代については出題されませんでしたが、2023年度には出題されています。地域については、2025年度はヨーロッパ史が多く、アジア史からの出題は少なく、特に中国を含む東アジアからはほとんど出題されていません。一方で大問となったアフリカ史からは例年よりも多く出題されています。2025年度の出題地域には偏りがありましたが、2024年度は満遍なく出題されているので、全地域を網羅する学習が必要でしょう。出題分野は政治史が中心ですが、社会経済史からの出題もあります。特筆すべきは文化史からの出題でしょう。2025年度も10%程度は文化史からの出題です。暗記に頼りがちな分野で、また学習を後回しにしていまいがちですが、対策をしておく必要があります。

難易度については、重箱の隅をつつくような詳細な用語を問うてくることはありません。設問となっているのは基本的な用語がほとんどです。ただし戦後史やアフリカ史、または文化史など、2025年度は学習がおろそかになりそうな分野からの出題が多くを占めたため難しく感じるかもしれません。時代と地域を網羅した正確な知識を身につけておくことが必要です。

大問ごとのテーマはⅠが「ルワンダを中心としたアフリカ史」、Ⅱは「地域統合」、Ⅲは「戦争の原因」、Ⅳは「黒海周辺史」、Ⅴは「核兵器の歴史」でした。多彩なテーマの問題文であり、またⅠでは学習院女子大学とルワンダとの関わりをさりげなく盛り込むなど、単なる入試問題で終わらないような工夫もみられます。実際の試験の時には全体を読む時間がないかもしれませんが、過去問研究をするときなどには勉強にもなりますから全体を読んでみるとよいでしょう。なお2024年度・2023年度のテーマは以下の通りです。

・2024 年度

- I. コシヨウ・トウガラシの歴史
- II. 朝鮮半島の歴史
- III. ヨーロッパにおける戦争観
- IV. イギリス・フランスと植民地
- V. スイスのジュネーヴ

・2023 年度

- I. 砂糖の歴史
- II. 韓国の世界遺産
- III. クロアチアの歴史
- IV. モーツァルト
- V. ジョージ=オーウェル

【学習アドバイス】

「5W1H1R」という言葉を知っていますか？「When（いつ）, Where（どこで）, Who（誰が）, Why（なぜ）, What（何を）, How（どのように）, 行いその Result（結果）どうなったのか」を意味しています。世界史学習の際に意識して欲しいことでもあります。歴史的事項を言葉として丸暗記するのではなく、物語として連続性のあるものとして理解して欲しいと思います。そのときに、ついおろそかにしてしまいがちなのが「Where」の分野です。地域の名称は知っているも、周辺地域との関係や地理的な特徴が把握されていないことが多くなります。少なくとも世界史の勉強をする際には資料集や地図帳を手元に開いて確認できるようにしておきましょう。2025 年度には地図問題が出題されたわけではありませんが、問題として出題されていないからといって地図をおろそかにしないで下さい。

世界史は人間の営みですから、因果関係に基づいて古い時代から現在につながっています。そこでまずは教科書などを利用して通史を理解しましょう。その際には先述のように、どの地域のことなのかを意識して下さい。「理解する」とは、他人に説明することができるというレベルをめざしてください。通史の理解を進めながら、心がけて欲しいことは知識のアウトプットです。学習というと知識のインプットを重視する傾向がありますが、得られた知識を活用できなければ合格点をとることはできません。市販の問題集などを利用して問題演習をくり返して下さい。全ての問題をくり返さなくても構わないので、できなかった問題・設問がなくなる状態を目指しましょう。

以上は世界史全般の学習方法ですので、ここからは本学の傾向に即して検討していきましょう。本学の世界史入試は 60 分の試験時間で大問が 5 題出題され、しかもそれぞれのリード文が一定の長さを持っています。解答数も 50 個と少なくありません。限られた時間で、いかに効率よく、そして正確に解答できるようにすることが必要になります。そのためにまず必要なのは文章を読解する力です。空欄補充形式の問題が多いので、文脈を読み取り空欄の前後から解答を想定しなければいけません。また文章の正誤判断問題も時間をかけてしまいがちですから、素早く文意を読み取り、判断する力を養うことが必要です。対応策としては同レベルの正誤判断問題をくり返すことを勧めます。その際には単に文章が正しいか誤っているかを「当てる」のではなく、特に誤文については、どの部分が誤っているのかを説明できるようにしまし

よう。おおむね異なる歴史用語を用いたり、肯定形を否定形にするなど文意を逆にしたりすることで誤文が作られることが多いことも、知っておくと問題を解くときに有利になるでしょう。

時代・地域・分野については満遍なく出題されている傾向をもっていますので、ヤマをはらずに全ての範囲を網羅して学習しましょう。それでも頻出で得点差が出やすい分野として戦後史を挙げることができます。2025年度も多くの設問が戦後史から出題されました。我々の生活している現在に直結している時代であり、時事的な要素も強くあります。時事問題への対応は、普段から新聞などを利用して情報を集めるとよいでしょう。映像は視覚的な効果がありますが、文章で読むことで先述の読解力の訓練にもつながります。受験勉強だけを意識した日々を送ることは閉塞感を生みますが、一方で余暇も受験勉強や大学での勉強につながると意識すれば罪悪感も減るでしょう。

合否を分けるポイントは皆ができる設問で点を落とさないことです。基本を徹底的にくり返してケアレスミスを避けて下さい。その上で、ライバルに差をつけるために人が苦手とする分野の知識を増やしていきましょう。具体的には分野では文化史や社会経済史、地域では東南アジアや中央ユーラシア、東ヨーロッパや南アメリカそしてアフリカやオセアニアなど、俗に周辺地域と称される地域です。特に文化史も頻出分野です。手を抜かないようにしましょう。みなさんが満足できる成果を出せるよう祈っています。頑張ってください。